

令和3年度  
授業改善推進プラン

令和3年8月  
大田区立羽田中学校

## 目 次

令和3年度 大田区立羽田中学校 授業改善推進プラン全体計画	1
各教科の授業改善推進プラン	
国語科	2, 3
社会科	4, 5
数学科	6, 7
理科	8, 9
英語科	10, 11, 12
音楽科	13, 14
美術科	15, 16
保健体育科	17, 18
技術・家庭科	19, 20

【関係法令等】

- 日本国憲法 ○教育基本法
- 学校教育法 ○学習指導要領
- 東京都教育委員会教育目標
- 大田区教育委員会教育目標

【学校の教育目標】

人間尊重の精神を基調として、広い視野をもって未来を生き抜く、心身共にたくましい生徒を育てるために、次の三つの力を生徒に身につかせるために、全教職員で教育実践に取り組む。

○「豊かな心」 ○「学ぶ力」 ○「健やかな体」

【願い】

- 学校、地域の実態
- 地域の期待や願い
- 保護者の期待や願い
- 期待される生徒像

学校経営方針 笑顔と信頼のあふれる学校を目指して

『豊かな心と主体性を育む教育』を推進する。  
『学力向上・体力向上のための取り組み』を推進する。  
『地域と共に子どもを育てる教育』を推進する。  
『規律ある学校生活』を送らせる。  
『信頼される学校』であり続ける。

各教科の指導の重点

○「区学習効果測定」、「全国学力・学習状況調査」「保護者・生徒による授業評価」等の結果分析、基礎・基本の定着と思考力を高めるための「授業改善推進プラン」の作成による授業改善への取り組みの充実

○生徒の学習状況の把握と個に応じた指導の充実のために「学習カルテ」の作成と個別面談の実施

○各生徒に配布したタブレット教材などのICTの活用

○土曜補習(年6回)、放課後学習教室

【本校における確かな学力の捉え方】

本校では生徒の人間としての調和のとれた成長を目指し、次に掲げる力を育成する。

- ①基本的な生活習慣と学習習慣
  - ・規則正しい生活をしていこうとする意識
  - ・家庭学習を継続する力
- ②授業規律と学習環境を整える力(姿勢・態度・服装・授業前の準備)
  - ・学習用具を揃える力
  - ・話を聞く力
  - ・ノートをとる力
- ③基礎・基本的な学力
  - ・読む力
  - ・読んで理解する力
  - ・話す力
  - ・書く力
  - ・計算する力
- ④知識及び技能を活用する力
  - ・思考力
  - ・判断力
  - ・表現力
  - ・発表力
- ⑤主体的・創造的に学び続ける意欲や態度
- ⑥情報の収集能力・活用能力
- ⑦自ら課題を設定し探究する力、課題解決能力、コミュニケーション能力
- ⑧マナーや規範意識
- ⑨個性・適性を生かし社会に貢献していく力、自己実現を図ろうとする力

道徳教育の指導の重点

○「深く考え、議論する」道徳へ向けた指導法の研修を推進し、意図的・計画的な道徳授業の実施を図る。

○小中連携「規範意識向上プログラム」を計画的に実践し、何が正しいかを判断し、自ら責任をもって行動できる能力(自己指導力)を養う。

○ICT機器を用いて、互いの考えを共有・整理し、議論を深める。

○道徳授業地区公開講座を充実させ、家庭や地域社会と連携した心の教育を推進する。

○自他の命を大切にすることを養い、命の尊さを知る教育に取り組む。(3月生命尊重週間)

総合的な学習の指導の重点

○生徒自らが課題を設定し探求する学習の3年間を見通した計画的な実施

○環境問題や国際問題、地域の課題、職業や自らの将来などへの課題意識をもたせる指導と、課題解決能力やコミュニケーション能力の育成

○図書室やタブレットの有効活用、地域の図書館や関係諸機関との連携など、様々な学習環境の積極的な活用

基礎的・基本的な生活習慣・学習習慣

◇ 広義の基礎・基本  
学習指導要領に示された目標および内容

◆ 狭義の基礎・基本  
・読む力 ・読んで理解する力 ・話す力  
・書く力 ・計算する力  
・生徒の実態に応じた身につけさせたい力

特別活動の指導の重点

○「時と場と立場をわきまえた行動」の確立と主体的な活動を通じた自己伸張

○生徒会活動・学級活動の充実による自主的・自立的な態度の育成(ノーチャイムデイ・ボランティア清掃の実施)

○部活動への積極的な取り組みによる豊かな感性の涵養と体力の向上、生徒相互・生徒と教師の信頼関係の深化

○特別支援学級との交流活動の充実

進路指導・キャリア教育の指導の重点

○「人としてのあり方、生き方」を考えさせる指導

○3年間を見通した進路指導計画に基づく系統的・計画的な指導の継続

○就労者の講演会やマナー講習等を通して、社会に貢献する態度の育成と自己実現を図ろうとする力の涵養

生活指導の重点

○規範意識の向上と望ましい生活習慣の確立

○学校生活調査とHyper-QUの実施、スクールカウンセラーやサポートルームと連携した教育相談の充実

○セーフティ教室(SNS、薬物乱用防止)の実施

○地域や家庭、関係諸機関との連携による健全育成、安全指導の徹底

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導内容・指導方法の工夫	研究・研修への取り組み	評価の工夫	小学校および家庭や地域社会との連携の工夫
新学習指導要領の趣旨を踏まえて ○基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と、思考力・判断力・表現力、及び学びに向かう態度の育成 ○学校評価の改善・工夫と、それを生かした授業評価の実施 ○「朝読書」「朝学習」「新聞教育」を活用した読解力・表現力の育成 ○道徳の授業の充実 ○サポートルームを活用した、指導の充実	○数学(全学年)で少人数習熟度別授業を実施 ○英語(全学年)でティームティーチングによる指導を実施 ○総合的な学習の時間における職場体験・上級学校訪問などの体験的な活動の充実 ○個に応じた指導の充実のため「学習カルテ」の作成とカルテに基づく個別の面談の実施 ○オンデマンド授業やタブレット学習による学習機会の保証と充実	○生徒の学習意欲を引き出す指導方法の工夫と学力向上のための取り組みの充実 ○職層に応じた研修や校外の研修への積極的な参加と研修成果の還元 ○特別支援教育コーディネーターを中心とした特別支援教育に対する支援体制の確立とケース会議の充実 ○ICT推進校における研究の充実	○より精度の高い評価基準を目指した適切な評価計画に基づく評価の実施 ○指導と評価の一体化(生徒の学習意欲を喚起し、生徒・保護者への評価に対する説明責任を十分に果たす) ○各教科の学習状況の保護者への周知と家庭における学習習慣の定着を目指した取り組みの推進	○連携小学校との共通指導目標(「学習指導・指導スタンダード」)の活用 ○小学校児童を対象とした中学校見学・部活動体験の実施 ○ボランティア活動への積極的な参加の促進と地域との連携の充実 ○「アシスト羽中(学校地域支援本部)」との連携

## 令和3年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・説明的文章・文学的文章などに音読指導を行うことによって漢字についての知識や文法的な知識など基礎的・基本的な知識が定着してきている。
- ・小テスト、単元テストを繰り返し行うことで、知識の定着度を確認しながら授業をすすめることができた。

#### (2) 課題

- ・単元で新しく学んだことを一時的に理解はできるが、定着に繋がらない生徒が多い。活用の問題に対して、既習事項に繰り返し触れさせる必要がある。
- ・既習事項を活用して応用問題への対応をすることへの苦手意識が強い。授業で作文などを書く練習時間を多くとる必要がある。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第1学年	全体としては目標値を3.1ポイント上回った。しかし区や全国の正答率と比較すると上回っている領域もあるが、全体的には下回っている。基礎の問題の部分を強化し、定着を図りたい。	/	/
第2学年	全体としては目標値を3.0ポイント上回った。しかし区や全国の正答率と比較して上回っている領域もあるが、全体的には下回っている。活用の問題の部分に課題が残る。	全体としては目標値を2.4ポイント下回った。「言語についての知識・理解・技能」に関する観点については、目標値を上回っているが、ほかの観点については課題が残った。	/
第3学年	全体としては目標値を0.3ポイント上回った。どの観点も目標値を上回っていたが、「主体的に取り組む態度」が最も顕著であった。	全体としては目標値を0.2ポイント上回った。「読む能力」や「言語についての知識・理解・技能」に関する問題に課題が残った。	全体としては目標値を3ポイント弱下回った。「言語についての知識・理解・技能」の観点では目標値を上回ったが、そのほかの観点には課題が残った。

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を3.4ポイント上回った。漢字も文法語句に関する知識も目標値を上回っていた。	目標値を3.2ポイント上回った。説明文の読解については区や全国の正答率と比較しても上回っている。さらに伸びるように指導していきたい。	目標値を5.9ポイント上回っている。区や全国の正答率と比較しても上回っているのだからさらに伸ばせるようにしていきたい。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を4.7ポイント上回った。漢字の書き取りや文法語句に関する知識が目標値を下回っており、定着していないことが課題である。	目標値を10ポイント以上上回った。書く能力・話す聞く能力では区や全国の正答率と比較して上回っているので更に伸びるよう指導していきたい。	目標値を8.8ポイント上回った。区や全国の正答率と比較して上回っているのをさらに伸ばせるように指導していきたい。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を3.4ポイント上回った。漢字も文法語句に関する知識も目標値を上回っていた。	目標値を3.2ポイント上回った。読解は上回っていたが、書く問題ではわずかに届かなかった点に課題が残る。	目標値を5.9ポイント上回っている。これは、聞き取り問題での頑張りの影響のためと考えられる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識事項を定着させるため、漢字や文法の力を伸ばすための小テストなどの実施を定期的に行う。	読解問題や作文など、事実や事柄を明確に読み取ったり伝えたりするための方法や力を育成するために、段階的な指導に力を入れる。	多くの生徒が意欲的に授業に取り組んでいるので、さらに意欲が向上するように工夫して授業を進める。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的となる知識・技能を定着させるため、漢字や文法の力を伸ばすための小テストなどの実施を定期的に行う。また活用の部分の力を育成するために、いろいろな分野の本を読むように指導に力を入れる。	読解問題や新聞記事の読み取りなど事実や事柄を明確に読み取ったり、伝えたりするための方法や力を育成するために、段階的な指導に力を入れる。	多くの生徒が意欲的に授業に取り組んでいるので、さらに意欲が向上するように工夫して授業を進める。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識事項を定着させるため、漢字や文法の力を伸ばすための小テストなどの実施を定期的に行う。	読解問題や作文など、事実や事柄を明確に読み取ったり、伝えたりするための方法や力を育成するために、段階的な指導に力を入れる。	多くの生徒が意欲的に授業に取り組んでいるので、さらに意欲が向上するように工夫して授業を進める。

令和3年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 2, 3年生においてはワークを用いた問題演習や単元ごとのテスト等を繰り返し行ってきたことで基礎的・基本的な知識が定着してきている。

(2) 課題

- ・ 3年生では雨温図や地形図の読み取りは概ねできているが、その他の資料を用いた問題や記述式問題への対応に課題が残った。また、2年生では資料の読み取りという部分に課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第1学年	目標値から0.6ポイント下回っている。地理的分野では活用に関する問題で基礎的な部分に課題がある。歴史的分野では前近代の範囲の問題で正答率が低くなっている。		
第2学年	目標値を5ポイント強上回ることができているものの、世界の諸地域の大問で正答率が伸びていないという課題がある。	目標値に対して4.8ポイント下がる結果となった。とりわけ関心・意欲・態度と知識・理解の観点において大きく目標値を下回っている。	
第3学年	目標値を5.5ポイント上回ることができているが、歴史的分野の近代の範囲で正答率が伸びていない点が課題である。	全体として目標値と比較すると2.3ポイント上回ることができている。特に関心・意欲・態度と思考力・判断力・表現力の観点において大きく目標値を上回ることが出来ている。	全体では目標値から下回る結果であった。特に知識・理解を問う問題において正答率が低い傾向が見られた。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理的分野の資料の読み取りは概ねできているものの、工業地帯の位置や歴史上の政策についての基本的な知識の理解に課題がある。	地理的分野や公民的分野においては記述解答の問題を含めて高い正答率となっているものの、歴史的分野での正答率が低くなっている。	地理の基礎的な問では正答率が伸びているものの、歴史での記述解答や地理の作図解答の問題でやや課題が見られる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界の諸地域等の基本的な知識を問う問題では目標値を上回る正答率となっているものの、資料を読み取る問題にやや課題が見られる。	概ね目標値を上回る正答率となっているが、気候に関する比較を行う問題でやや正答率が低くなっている。	地歴全体を通して概ね正答率は高いという結果だったが、知識に関わる問題に若干の課題が見られた。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歴史的分野の基本的な知識を問う問題については概ね正答できていたが、資料を用いた問題での正答率がやや低くなっている。	記述の問題では目標値を上回ることができていたが、資料を用いて判断する力を問う問題で正答率が伸びていない。	地理的分野では概ね目標値を上回る正答率となっていたが、歴史的分野の思考力に関わる問題での正答率が低い問題があった。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
毎時の授業内において適宜、既習事項の振り返りを行う学習内容の定着を図る。 ICT 機器を活用して雨温図や主題図などの資料の読み取りの基礎を徹底的に行い、読み取った内容を記述させる。	授業内で「なぜ、このような状況が生じたのか？」といった問に対して、社会的事象が起こる因果関係を考え、ノートにまとめさせる活動を行う。	授業内で問を投げかけ、それに対する解答を教科書等を参考にしながら自ら考え記述させる活動を行う。 (グループワークを含む)

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各種統計資料や地図の読み取りを反復して行う。また単元ごとに単元テストを行い、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。	授業内で「なぜこのような状況が生じたのかなど」の問いに対して自ら考えさせる活動を行う。	単元毎に学習ワークへの取り組みを徹底させ、基礎的・基本的な学習内容の定着を図りながら、粘り強く学習に取り組めるよう促していく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的・基本的な既習事項を授業内において反復して問うことで学習内容の定着を図る。 ICT 機器を活用して雨温図や主題図などの資料の読み取りを確実に習得する。	資料等から「なぜこのような状況が生じたのか？」や「問題点は何か？」などの問に対して、自ら考えワークシートに記述したり、資料と社会的事象の関連を授業内で記述するなどの活動を行う。	学習ワークを基礎的、基本的な知識の習得に限らず、資料の読み取り問題等にも主体的に取り組ませる。学習事項を教科書やタブレット教材を用いて問に解答させるという活動を行う。

## 令和3年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・基礎・基本の定着を目指し、演習を多く取り入れて授業を行っている。解答だけでなく、それを導く過程を生徒に説明させ、粘り強く問題を解く姿勢を培うことに繋がっている。
- ・タブレットを活用し、演習や課題を多く実践させることができた。生徒自ら自主学習としてタブレット演習をする習慣が身に付き、知識・技能面の向上が見られる。
- ・生徒に系統性を意識させたり、実生活に関連する課題を取り入れることで、生徒が主体的に学ぶようになったと考える。

#### (2) 課題

- ・異なる領域の学習をすると、既習内容が抜けてしまう傾向が見られる。他領域と関連する課題を取り入れる対策をして一定の効果は見られるが、まだ課題解決には至っていない。
- ・文章を読み取り、数学的に捉え思考することに苦慮する生徒が多い。文章の読み取り方、考え方を細かく分析して、問答させることで解決を図る必要がある。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第1学年	全体として、昨年度より3.5ポイントほど下降した。図形問題の正答率は上がったが、小数・分数の計算の定着に課題が見られる。	/	/
第2学年	全体として、昨年度より9ポイントほど上昇した。しかし、資料の活用領域では、目標値に達していない問題があった。また分数や累乗の計算の正答率が、昨年度を下回っていた。	全体として、昨年度より3ポイントほど下降した。特に、小数や分数の四則演算の正答率が、昨年度を大きく下回っていた。一方、百分率の問題の正答率は上昇していた。	/
第3学年	全体の正答率は、昨年度より4.0ポイント上昇した。基礎、活用ともに上昇したが、関数や確率に関する分野が課題である。	正答率について、全体は前年度より5.2ポイント上昇した。基礎が上昇し、活用が下降という結果だった。関数や空間図形の分野が課題である。	全体の正答率は、昨年度と比べ横ばいである。グラフや図形の知識に関する問題の正答率は上がったが、負の数の扱いや代表値の知識の定着に課題が見られる。

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体的に、目標値に近い正答率である。しかし、小数・分数の計算には未だ課題がある。	図形に関する問題については、目標値を越えているが、記述式の問題については目標値を大きく下回っている。誤りを指摘し	既習内容を用いて、課題解決を図る姿勢が見られる。正当には至らずとも、積極的に発言し熟考し、課題を解決しようとする



	たり、正誤の判断の理由を説明したりすることに課題がある。	姿勢が見られる。
--	------------------------------	----------

## ② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体として、目標値を越える正答率である。しかし、負の数の大小や絶対値の理解には未だ課題がある。また、累積度数や階級の理解が、目標値を大きく下回り課題が見られる。	関数や資料の活用領域の正答率は、目標値を越えている。しかし、1次方程式の利用場面では目標値を下回っている。文字式を読み取る力に課題が見られる。	問題を粘り強く考える姿勢に対し、集団内で二極化している様子が見られる。特に文章題や既述式、理由を答える問題では、何も書けない生徒が複数見られる。

## ③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
昨年度を上回る正答率であるが、目標値には達していない。関数や確率の正答率が目標値を大きく下回り課題である。	昨年度を上回る正答率であるが、目標値には達していない。問題文やグラフから物事を考察することが苦手な生徒が多く、特に関数や図形の証明に関する内容では顕著である。	既習内容を用いて、課題解決を図る姿勢が見られる。タブレット学習にも積極的に取り組み、授業で発言したり、学習に前向きな生徒が多い。しかし、文章で答える問題では、自身の考えを表現できない生徒が多い。

## 3 授業改善のポイント（観点別）

### (1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
考え方を適切な言葉を使い説明させる場を多く設ける。また、毎授業で計算演習を行い、知識・技能を定着させる。	ペアワークやグループワークを中心に、解答のみでなく、それを導く過程を説明させる。また、繰り返しの演習を行い、数学的な表現の仕方を定着させる。	既習事項の復習を丁寧に行い、新しく学ぶものとの繋がりを理解させ、生徒の意欲を高めさせる。

### (2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
負の数の計算に課題が見られるので、毎回行う計算演習に負の数を多く採り入れる。データの活用領域では、既習事項の復習を徹底して行い、系統的な指導を行う。	解答のみでなく、それを導く過程を説明させることを重点的に指導していく。適切な言葉を使うよう促し、互いに教え合うことで、思考力・表現力を培っていく。	既習事項を活用すれば課題を解決できるという経験、少しでも解答すれば部分的に得点できる実感をもたせ、粘り強く課題に取り組む姿勢を培っていく。

### (3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
毎回の授業で行う復習の演習や3年生での関連学習内容で復習を行い、定着を図る。	答えのみではなく、それを導く過程を授業の中でお互いに説明させることで、互いに高め合う授業展開を図る。また、説明することで自身の理解を深める。	既習事項の復習を行い、『できる』を感じることから意欲を高めたい。また、タブレットを活用することで、様々な問題に主体的に取り組む姿勢を養う。

## 令和3年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・ 1年生は、「活用」の問題で、目標値や区平均より高い結果が得られた。
- ・ 2年生は、「エネルギー」の領域、「観察・実験の技能」で、ほぼ目標値の結果が得られた。
- ・ 3年生は、「エネルギー」、「地球」の領域で、ほぼ目標値の結果が得られた。

#### (2) 課題

- ・ 1年生は、「基礎」の問題、「物質・エネルギー」の領域の正答率が低かった。
- ・ 2年生は、「活用」の問題、「関心・意欲・態度」の観点の正答率が低かった。
- ・ 3年生は、「観察・実験の技能」の観点、「生命」の領域の正答率が低かった。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第1学年	3観点の中で、「知識・技能」だけが目標値に届かなかった。実験ができなかった影響を感じる。	/	/
第2学年	「観察・実験の技能」の観点だけが目標値を超えた。特に低い「関心・意欲・態度」を育てたい。	「関心・意欲・態度」・「思考・表現」の観点が低かった。身近な科学から関心を高めたい。	/
第3学年	「粒子」「生命」領域が低い結果となった。学習してから期間が空いたことが原因かと思われる。	「エネルギー」領域が最も低い結果となった。実験結果をグラフにまとめ、定量的にまとめる力をつけさせたい。	「自然事象への関心・意欲・態度」が4観点の中で最も低かった。身近な理科から関心を高めたい。

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
昨年度より正答率が上がった。植物の蒸散に関する問題の正答率が低かった。	昨年度より正答率が上がった。てこに関する問題の正答率が低かった。	3観点で唯一、目標値より高い正答率だった。生物と環境の問題の正答率が低かった。

##### ② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
技能の部分は目標値より高かったが、知識の部分は低かった。植物や岩石のつくりについての正答率が低かった。	昨年度より正答率が上がった。水溶液を粒子で考えるものや、音の速さの問題の正答率が特に低かった。	日常生活に見られる現象で、蒸留や水と氷の密度に関する問題の正答率が低かった。

### ③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識分野に比べ、技能分野の正答率が低かった。実験器具や薬品の使い方、グラフの作成の正答率が低かった。	昨年度より正答率を下げてしまった。回路の配線、柔毛や呼吸の説明に関する問題の正答率が特に低かった。	動物の体の特徴で分類したり、実験から発生した気体を推測したりする問題の正答率が特に低かった。

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
毎回小テストを行うほか、問題練習や単元テストなどを行い、知識の定着を図る。	事象を調べる実験方法を考えさせたり、実験から事象を説明したり、考察する場面を増やす。	手にとって観察してみたり、観察出来ない部分は映像で確かめたりして、主体的に取り組む態度を育てる。

#### (2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
練習問題や小テスト、単元テストなどを用いて繰り返し学習することで、知識を定着させる。	化学変化を原子のモデルで考えられるように説明する。計算問題では、立式を重視し、繰り返し練習する。	雲の出来方や静電気の現象など、日常生活に見られる現象と関連づけて説明し、主体的に取り組む態度を育てる。

#### (3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
器具の性質を理解させるとともに、実験結果を定量的に考察することで技能の力を伸ばす。	運動エネルギーから位置エネルギーを考えたり、遺伝の仕組みを理論的に説明できたりするように指導する。	知識を身近なものにどのように応用されているのかを知ることで、主体的に取り組む意欲を高める。

## 令和3年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・興味・関心を高め、教科書の内容理解を促すためにICT機器を効果的に利用した。
- ・ペアワークやグループワーク、ALTとのやりとりを積極的に取り入れ、インプットやアウトプットの機会を多く設けた。
- ・小テスト、単元テストを繰り返し行うことで、知識の定着度を確認しながら授業をすすめることができた。

#### (2) 課題

- ・単元で新しく学んだことを一時的に理解はできるが、定着に繋がらない生徒が多い。既習事項に繰り返し触れさせる必要がある。
- ・学習した表現を活用して英作文を行うことへの苦手意識が高い。授業で書く時間を十分に確保し、短い英文を書く練習を繰り返す必要がある。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第1学年	全体の正答率は目標値を上回る達成率であるが、大田区の平均正答率と比較すると全ての領域で下回っている。特に「聞くこと」は区平均と比べ最も下回っている。	/	/
第2学年	全てにおいて目標値を上回っている。ただし全国平均や区平均を下回る。特に、記述や活用問題の正答率が低い。	/	/
第3学年	「聞くこと」「読むこと」の一部の力と「書くこと」の単語の並べかえによる英作文の力は伸びているが、語彙、文法の知識、理解は低下している。	「聞くこと」に関しては、概ね目標値に近い達成率である。「読むこと」「書くこと」に関しては、英文の内容の把握、英作文が課題である。	/

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値よりも 5.6 ポイント高いが、区平均と比較すると 3.2 ポイント低い。アルファベットの読み・書き・聞くは区平均より好成績だが、日常会話の聞き取りや英文の読み取りに課題がある。	英文の完成、英作文問題は区平均を大きく下回り、目標値も下回っている。文法はコミュニケーションを支えるものとして理解し、言語活動を通して身に着ける必要がある。	この観点のみ、全問題において区平均・目標値共に下回っている。小学校の思い出を英作文する問題では、見本を真似て表現する意欲をもつことが課題である。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単語を書く問題の正答率が高い。一方「書くこと」について、正しい語順を問う問題への正答率が低い。前年度と比べても 9.3 ポイント下回る問題もある。正しい語順で文章を作ることに課題がある。	「聞くこと」「読むこと」に関しては目標値を上回っている問題が多い。特に「読むこと」における長文の把握については、前年度より 28.1 ポイント上回った。一方で対話への応答には課題が残る。	「書くこと」や「読むこと」に関する問題は全般的に正答率が高い。一方で、「聞くこと」の対話文への応答の問題は全体的に正答率が低く、リスニングに対する意欲をもたせることが課題である。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
並べ替え英作文の力は概ね目標値を達成しているが、語彙・語形・語法など文法の知識・理解は、目標値を下回っているため、定着させる必要がある。	まとまった分量の英文を読み取る力や英作文の力が目標値に届かないので、育成する必要がある。	「聞くこと」に対する態度は意欲的であるが「書くこと」に対しては、抵抗感を減らし慣れさせることが課題である。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業を英語で進行し、未修の表現でも繰り返し聞かせることで段階的に理解を促し、日常会話の聞き取り力向上を図る。教科書の本文は自主的に読むことを促し、ペアによる言語活動によって確認する指導を通し、読み取り力向上を図る。	文法はコミュニケーションを通して身に着けることを重要視し、言語活動を充実させる。知識・技能の定着を徹底し、学んだ文法事項を用いた会話・英作文を部分毎に行う。	帯活動を英語で進行し、既習事項を用いた言語活動を取り入れ、授業を実際のコミュニケーションの場とするよう工夫し、英語を使う意欲を高める。相手に配慮した積極的なコミュニケーションができることを重視し、対話的な学びを取り入れる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「書くこと」への抵抗感を減らすため、語順や語法のトレーニングを強化する。基本本文を反復練習することにより、基礎的な文法の知識の定着を図る。	ALTとの対話や、QAの帯活動を行う際、生徒により正確性を求める。また、文章の読み取りをする際に、英問英答を多く取り入れる。	ビンゴやスピード英作文等、帯活動を効果的に行い、生徒の学習意欲をより高める。そうして家庭での自主学習への意欲も高め、基礎学力を向上させる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
帯活動で既習の単語・文法事項を繰り返し復習し、小テストなどを定期的に行い、定着を図る。	「読むこと」では、読み取るうえで欠かせない技術を指導することで、限られた時間内で、内容を理解する力を養う。「書くこと」ではスモールステップで書く機会を多く設ける。	「聞くこと」「話すこと」では、興味をわくテーマを設定し、ペアワークで継続的に取り組ませる。「書くこと」でも、意欲が高まる題材を与え、定期的に指導する。

## 令和3年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・鑑賞では、能「羽衣」、「春」、「フーガト短調」を取り入れた。音楽をかたちづくっている要素を知覚することで、感受した曲の雰囲気との関わりを考えることができた。
- ・創作活動では、テーマに沿ったリズム作りを行った。音符の名前や拍を理解し創作に生かすことができた。また、速度や、強弱とも関連づけて、テーマに沿ったリズムづくりをするために、音楽的要素の何が必要なのかを考えることができた。

#### (2) 課題

- ・器楽にリコーダーを取り入れられなかったので、2学期からはギターとリコーダーを半分ずつに分けて実施していきたい。
- ・自ら考えて音楽表現を工夫することに課題を感じる。話し合い活動をさらに取り入れて改善を促したい。
- ・楽典知識の定着ができていないので、授業中に随時復習を取り入れ、定着を促したい。

### 2 観点別の課題

#### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1つのことを理解するまでに時間がかかる。また、歌唱では、大半の女子生徒は音感が良い。一方で、男声の音程が不安定である。	表現の工夫について指摘すれば改善が見られる。しかし、自ら表現を工夫しようという思考力は乏しいように感じる。	授業中は非常に積極的で、活発に発言することが多い。しかし、私語が多くなってしまうときがある。

#### ② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
クラスの人数が少ないこともあり、歌唱活動での声量が全体として少ない。知識の吸収は比較的早いですが、時間が経つと忘れてしまう傾向がある。	表現のために必要な思考・判断力が乏しい生徒が多い。鑑賞では、注目するポイントを提示すると、よく考えることができるが自ら見つけることはできない。	授業中の発言は多い。しかし、歌唱活動になると、声が小さくなる。歌にあまり自信のない生徒が多いように感じる。

#### ③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
一人で歌うことに慣れていない。実技試験では、音程感、リズム感が乏しい生徒が多かった。楽典の知識はあまり定着していない。	自ら考えて表現を工夫しようという思考力に欠ける。器楽の練習にはしっかりと集中して取り組むことができる。一方で自ら課題を見つけ、解決することは難しい。	歌唱活動に対して非常に積極的である。話し合い活動をしっかり行うことができる。一方で授業中は寝てしまう生徒がいたり、忘れ物が多い生徒がいたりする。

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な楽典知識を授業の導入の際等に復習させ、知識の定着を促す。歌唱では、変声期をむかえる男子生徒に苦手意識をもたせないよう、細かく指導していく。	表現についてパートごとに考える機会を増やし、他者の意見を取り入れながら自身の表現を工夫できるようにする。	授業規律を守らせることを徹底する。また、授業の流れを最初に説明することで学習の見通しをもたせる。

#### (2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歌唱の正しい姿勢や発声を、身につけることができるよう、歌唱の際には必ず姿勢・発声・呼吸の3点を意識させる指導を行う。	他者の演奏を鑑賞し、アドバイスすることができるよう、お互いの演奏を聴き合う活動を取り入れる。鑑賞ではどこに注目して聴くかを考えさせる。	音楽に興味・関心をもたせるために、普段の生活と音楽との関わりに気づかせる。授業の流れを確立し、生徒に学習の見通しをもたせる。

#### (3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎知識を生かせるよう、毎時の目標を意識して取り組む。歌唱の際には必ず姿勢・発声・呼吸の3点を意識させ、表現の工夫に必要な技能を定着させる。楽典の知識を表現にも活用できるよう、随時復習させる。	振り返りを丁寧にする。「どんなことが課題でそれを解決するためには何が必要なのか」を常に考えさせる指導をおこなう。鑑賞で知覚したことと感受したことの関わりを意識させる。	学習の目標を明確化し、学習の見通しをもたせる。授業中の問いかけを増やし、対話の中で鑑賞のポイントや表現のポイントに気づかせることによって生徒の集中力をきらさないようにする。



## 令和3年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・授業の目標を明確にすることにより作品に熱心に取り組むようになった

#### (2) 課題

- ・発想や構想について自分らしく表現することが難しい。
- ・生活の中で芸術に触れる機会が少ない。

### 2 観点別の課題

#### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識・理解の習得にばらつきがあり、丁寧な指導を必要とする。	自分の思考していることを判断し更に表現することに苦手意識をもっている生徒がいる。	主体的に授業に取り組む生徒は多いが力量に差がある。

#### ② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識・技能の習得は、かなりのばらつきがある。しかし、熱心に取り組んでいる。	表現することは好きであるが、思考・判断することに難しさがある。	比較的熱心に授業に取り組んでいる。

#### ③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識・技能の習得に個人差があるものの、全体的に授業には熱心に取り組んでいる	思考・判断・表現することが好きな生徒が多い。しかし、授業のテーマから外れる生徒もいる。	全体的に主体的にかつ熱心に授業に取り組んでいる。ごくわずかだが、作業が捗らない生徒がいる。

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
調べ学習やワークシートを用いて知識・技能の習得をひとりひとりに丁寧に行う。	メソッド方式に自分の表現したい主題を生み出す練習に取り組ませる。	地域の街並みなど日常の中にある美術に気づかせ、社会貢献の一つとしてポスター制作に取り組ませる。

#### (2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
制作する作品の材料や用具を生かせるように、他者の制作順序や手順を鑑賞できる時間をとる。	身の回りにある自然物や人工物の美しさを観察する時間を取り調和の美について考えさせる。	美術館やICT・テレビの番組などで美術品に触れる時間を作り、レポートを制作させ、制作の中で芸術に触れる機会を増やす。

#### (3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
制作する材料や用具の特性を生かし制作できるように制作順序、注意点などをICT機器等を活用し、生徒ひとりひとりに定着させる。	日本の伝統や文化の美しさを感じとれる水墨画や漆工芸の教材を選び、それらの教材に触れることにより、美術を通した国際理解や美術文化の継承と創造について考えさせる。	日本の伝統美術や工芸について調べ、学習によるレポート制作や美術文化の鑑賞に重点を置いて指導に当たる。

## 令和3年度 保健体育科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・図やパワーポイント、動画のような、見て分かる資料を活用し、分かりやすく集中しやすい環境を作ることができた。
- ・一人一人の課題を把握し、個に応じた練習方法を示したり、前向きな言葉をかけたりし、生徒一人一人が技能を向上したことを実感し、自己肯定感につなげることができた。
- ・授業の流れを明確にすることにより、生徒が見通しをもって取り組み、特に3年生では、リーダーを中心に主体的に活動することができた。

#### (2) 課題

- ・新型コロナウイルスの影響で、体力が著しく低下しているため、できる範囲で総合的に体力を向上させるトレーニングを増やす。
- ・自らの学習を調整し粘り強く取り組めるよう、レベルに応じた課題を提示できるようにする。

### 2 観点別の課題

#### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
《男子》肥満傾向にあり、運動技能が低い生徒が多くいる。技能が高い生徒は一握りでその差が激しい。 《女子》運動量が減少していることから、運動の知識や技能に課題が多い。	《男子》指示を行うことはできるが、自ら正しい判断を行うことは難しい。 《女子》自己の課題をみつけて練習を工夫する力が不足している。	《男子》肥満傾向の生徒は主体的に運動へ取り組む意欲が低い。反面、技能が高い生徒は主体的に取り組むなど、二極化が見られる。 《女子》課題に一生懸命取り組める生徒が多いが、自己肯定感が低い。

#### ② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
《男子》技能の高い生徒が多い。技能の低い生徒は一握りである。一方、知識に関しては技能と反比例している。 《女子》運動量が減少していることから、体力が低下している。知識を定着させることが苦手である。	《男子》自ら考え、判断できる生徒もいるが、そうでない生徒が多い。 《女子》自己の課題をみつけて練習を工夫する力が不足している。	《男子》運動に主体的に取り組める生徒が多い。技能の低い生徒も意欲的に取り組んでいる。 《女子》課題に一生懸命取り組める生徒が増えてきている。

### ③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
《男子》技能の高さは二極化していて、その差が激しい。  《女子》技能ポイントを意識して活動できる生徒が増えてきた。	《男子》その状況に応じた判断ができる生徒が増えている。自己や相手の課題を見つけ、練習やアドバイスを工夫することに課題がある。 《女子》自己の課題や相手の課題を見つけアドバイスや練習を工夫する力が不足している。	《男子》運動に主体的に取り組める生徒が多い。技能の低い生徒も意欲的に取り組んでいる。 《女子》何事にも一生懸命取り組める。仲間の学習を援助できるとよい。

## 3 授業改善のポイント（観点別）

### (1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
《男子》補強運動や基礎練習を繰り返し行い、基礎体力をつける。資料を提示し、分かりやすい授業を行う。 《女子》補強運動や基礎練習を繰り返し行い、基礎体力をつける。資料を提示し、分かりやすい授業を行う。	《男子》毎授業、ねらいや授業の流れをきちんと説明し、主体的に思考し、判断できるようにする。学習カードに記入、確認できるようにする。 《女子》動作を細かく分けてポイントを伝え指導する。学習ノートに課題を記入できるようにする。	《男子》成功体験を増やす。そのため、習熟度別に目標や課題を設定し、達成感や充実感を高める。 《女子》場面練習を多く取り入れ、内容を理解させる中で、できたことは褒め、自信をつける。

### (2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
《男子》補強運動や基礎練習を繰り返し行い、基礎体力をつける。資料を提示し、分かりやすい授業を行う。 《女子》補強運動や基礎練習を繰り返し行い、基礎体力をつける。資料を提示する。繰り返し授業で確認する。	《男子》毎授業、ねらいや授業の流れをきちんと説明し、主体的に思考し、判断できるようにする。学習カードに記入、確認できるようにする。 《女子》動作を細かく分けてポイントを伝え指導する。学習ノートに課題を記入できるようにする。	《男子》成功体験を増やす。そのため、習熟度別に目標や課題を設定し、達成感や充実感を高める。 《女子》場面練習を多く取り入れ、内容を理解させる中で、できたことは褒め、自信をつける。アドバイスをかける時間を確保する。

### (3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
《男子》補強運動や基礎練習を繰り返し行い、基礎体力をつける。資料を提示し、分かりやすい授業を行う。 《女子》補強運動や基礎練習を繰り返し行い、基礎体力をつける。資料を提示する。繰り返し授業で確認する。	《男子》毎授業、ねらいや授業の流れをきちんと説明し、主体的に思考し、判断できるようにする。学習カードに記入、確認できるようにする。 《女子》動作を細かく分けてポイントを伝え指導する。学習ノートに課題を記入できるようにする。	《男子》成功体験を増やす。そのため、習熟度別に目標や課題を設定し、達成感や充実感を高める。 《女子》場面練習を多く取り入れ、内容を理解させる中で、できたことは褒め、自信をつける。アドバイスをかける時間を確保する。

## 令和3年度 技術・家庭科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・タブレット端末を適切に活用することで、効率的で深い学びを実現しようとしている。
- ・「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業展開を行っている。課題であった「対話的な」学習も、班やペアを組んで学習に取り組ませる工夫を行っている。
- ・授業で行った基本的な知識が中々定着しないという課題があったが、教材を実生活に結びつけ、重要な部分は繰り返して指導する等の工夫を行い、改善を図っている。

#### (2) 課題

- ・製作実習において、生徒の作業進度に差が生まれ、完成が難しい生徒が出てしまう。班活動をさらに充実させ、「教え合い」の雰囲気をつくっていくことが必要である。また、「わかりやすい」授業の実現のために、教師が優れた見本を示したり、生徒が使いやすい技術室になるよう、工具や機械類の適切な配置を検討していく。
- ・「教材で育成を目指す資質・能力」を身に付けさせるためには、①「教材」②「教授法」③「学習者」を考えなければならない。それぞれの方法や実態を分析し、工夫した授業を行っていく。

### 2 観点別の課題

#### (1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人数が少ないこともあり、個に応じた指導を行うことができた。その結果、技能の向上が見られたが、知識を深める授業を行うことが今後の課題である。	課題解決型の題材を扱い、話し合い活動を多く取り入れているが、限られた授業数で如何に深い学びにつなげるかが課題である。	生徒のものづくりに対する意欲は高く、主体的に授業に参加する様子がうかがえる。

#### (2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
製作の授業で技能の向上が見られる一方、定期考査の結果からは知識が定着しているとは言いがたい。	図面を見ての製作が中心となってしまうので、今後は設計の課題を設け、表現の場をつくることが課題である。	生徒のものづくりに対する意欲は高く、主体的に授業に参加する様子がうかがえる。

#### (3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
計測・制御の授業ではプログラミングの仕組みを理解し、課題に取り組むことができていたが、知識の定着には課題が残った。	課題解決型の題材を扱い、考え、表現する授業を行ったが、話し合い活動を設定できなかったことが課題である。	生徒のものづくりに対する意欲は高く、主体的に授業に参加する様子がうかがえる。限られた授業数で、内容の濃い授業を行うことが今後の課題である。

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### （1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
引き続き個に応じた指導を心掛けていく。生徒同士の教えあいを大切にし、ものづくりの意義や楽しさを伝えていく。知識が定着するよう、粘り強く指導していく。	I C T機器を効果的に活用し、効率よく生徒が意見等を表現できるよう、環境を整えていく。話し合い活動も充実させていく。	実生活につながる題材を使い、生徒が主体的に学習に参加できるよう工夫していく。生徒の学習活動を適切に評価していく。

#### （2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
引き続き個に応じた指導を心掛けていく。生徒同士の教えあいを大切にする。実習で学んだ知識が定着するよう、粘り強く指導していく。	エネルギー変換の分野では、回路の設計の課題を設け、深く考え、表現する機会をつくっていく。	実生活につながる題材を使い、生徒が主体的に学習に参加できるよう工夫していく。生徒の学習活動を適切に評価していく。

#### （3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
引き続き個に応じた指導を心掛けていく。生徒同士の教えあいを大切にする。実習で学んだ知識が定着するよう、粘り強く指導していく。	プログラミング学習において双方向型の授業を行い、深く考え、表現する機会をつくっていく。	実生活につながる題材を使い、生徒が主体的に学習に参加できるよう工夫していく。生徒の学習活動を適切に評価していく。